

事業名	音楽の魔法コンサート(こども向けインクルーシブクラシックコンサート)
-----	------------------------------------

【当初計画の事業目的(取組課題)と実施効果】

【事業目的】

- ①障がい児と健常児が共に参加し、共通の体験を通して各々が「多様性」を体感することにより寛容な社会形成を目指す。
- ②こども参加型のコンサート(体験コーナー等の実施)により、様々な音楽的事象への関心を広げる。
- ③こどもたちへのクラシック音楽(伝統芸術)の継承、普及。
- ④障がいのあるこどもと親が気軽に足を運ぶことができるクラシックコンサートの提供。
- ⑤川崎市内の活動エリアを広げるにより、より多くの市民がインクルーシブコンサートに触れる機会を創出する。

【実施効果】

- ①多様なこどもたちが共に「音楽」という一つのテーマを通して一体となる経験をすることができる。「多様性」を体感することにより、結果的に寛容な社会の実現に繋がることが期待できる。
- ②様々な楽器や歌によるリアルな音楽体験をすることにより、多角的に音楽への興味関心を引き出すことができる。
- ③分かりやすい演出を加えるプログラムにより、クラシック音楽の真の楽しさを理解することができる。
- ④「出入り自由、踊っても歌っても良いコンサート」とすることで、障がい等の理由により普段コンサートに足を運ぶことを躊躇する親子が気兼ねなく音楽を楽しむことができる。
- ⑤昨年度と異なる区域で開催することにより、川崎市内の多くのこどもたちに参加してもらうことができる。

【実施結果(成果)】

・8月3日(木)14時開演(15時30分終演) ミューザ川崎市民交流室

主催側参加者: 18名

来場者(定員100名): 95名(応募人数151名のところ)

チラシ枚数: 2000枚

※配布先: 川崎市内の支援学校、特別支援学級、療育センター、相談センター、放課後デイサービス・ダンウェイジュニアGU!、その他協力者各位

【プログラム】

音楽の魔法コンサート Vol.6 ピーターとおおかみ

(演奏楽器: バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバス、オーボエ、クラリネット、フルート、ピッコロ、ファゴット、タンバリン、ピアノ、笙、龍笛、テノール)

第一部

① G.ビゼー 歌劇カルメンより「トリアドール」

② S.プロコフィエフ ピーターとおおかみ

※ こどもたちの中から事前に「ピーター役のアナレーター」を募ったところ、6名の希望者がいた(当日1名欠席)。

そのため、こどもたちと相談し「ピーター(2名)、あひる、小鳥、猫」の役を割り振り、演奏に合わせてアナレーターを務めてもらった。

休憩

楽器体験コーナー

※ ヴァイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバス、ピアノの演奏体験。

管楽器については、楽器の性質上演奏体験はせず、音の出る仕組みを伝えたり、こどもの目の前で演奏して音を聴いてもらったりした。

第二部

③ P.マスカーニ 歌劇カヴァレリア・ルスティカーナより「間奏曲」

- ④ W.A.モーツァルト アイネ・クライネ・ナハトムジークより第一楽章
- ⑤ 越天楽
 - ※ 笙、龍笛、篠笛といった日本の笛の紹介
- ⑥ ふるさとの四季
- ⑦ 八木節

♪演奏動画(27分ほどに編集)

<https://youtu.be/2vKbkT1zSLg>

・12月9日(土)14時開演(15時30分終演) 川崎市総合自治会館 ホール

主催側参加者:18名

来場者(定員100名):105名(応募人数143名のところ)

チラシ枚数:2000枚

※配布先:川崎市内の支援学校、特別支援学級、療育センター、相談センター、その他協力者各位

【プログラム】

音楽の魔法コンサート Vol.7 ^{マジッククリスマス} MagiChristmas☆

(演奏楽器:バイオリン、ピオラ、チェロ、コントラバス、オーボエ、クラリネット、フルート、ピッコロ、ファゴット、ホルン、タンバリン、ピアノ、テノール)

第一部

① P.I.チャイコフスキー くるみ割り人形

※ 音楽を物語に合わせて抜粋し、お話を交えながら演奏した。

8月のコンサートでナレーターを務めてくれたお子さんにクララ役を依頼。

休憩

楽器体験コーナー

※ ヴァイオリン、ピオラ、チェロ、コントラバス、ピアノの演奏体験。

管楽器については、楽器の性質上演奏体験はせず、音の出る仕組みを伝えたり、目の前で演奏して音を聴いてもらったりした。

第二部

※ ②と③は「名画と音楽」と題して、曲のイメージに合う絵画をスライドに投影して演奏。

② C.ドビュッシー 星の夜【ゴッホ「星月夜」】

③ P.マスカーニ 歌劇カヴァレリア・ルスティカーナより「間奏曲」【ラファエロ「小椅子の聖母」】

④ クリスマスソング

- ・もろびとごぞりて
- ・きよしこの夜
- ・あわてんぼうのサンタクロース
- ・ホワイトクリスマス
- ・赤鼻のトナカイ
- ・ジングルベル(こどもたちはエッグマラカスで参加)

♪ 演奏動画 <https://youtu.be/K3gNR-aJyCk>

【実際の効果と課題】

1. 実施効果

- ① 多様なこどもたちが共に音楽という一つのテーマを通して一体となる経験をすることができる。「多様性」を体感することにより、結果的に寛容な社会の実現に繋がるのが期待できる。

感覚としては、障がいのあるこどもたちの割合は両コンサートともに3~4割程と思われる(車椅子の利用者6名)。座席後方のスペースで身体を動かしているこどもの姿も見られ、それぞれに楽しんでいた様子が見受けられた。

※8月のコンサートでのエピソード

「ピーターとおおかみ」のナレーターに応募してくださったお子さんの中に、障がいのあるお子さんがいらした。

他の4名のこどもたちと一緒にステージでナレーターを務めた様子がとても自然で、会場の一体感を感じる素晴らしい

プログラムとなった。

※12月のコンサートでのエピソード

楽器体験後の第二部では、演奏中にステージへ出て来てバイオリンを弾きたがるお子さんがいらした。

楽器体験で使用したバイオリンを渡し、バイオリン奏者の隣に席を作って一緒に演奏してもらった。

とても自然な形で多様性が実現したコンサートだったと感じる。

また、今回はお客様アンケートの中に「多様性をコンセプトとしたコンサート開催についてのみなさまのご意見をお聞かせください」という項目を入れ、お客様のご意見をお聞きした。

障がいをもつお子さんの親御さんからも、当事者ならではの貴重なご意見を多くいただくことができた。

【アンケートより】

- ・垣根なく、差をつけるでもなく、変に説明するでもなく、ただ同じ空間で同じ音楽を「一緒に」楽しめたことがとても自然で良かったです。
- ・多様性を謳わなくても多様な人が集うのが当たり前であれば、と思いますが、なかなかそうはいかないのが現状です。今回のようなコンサートでいろんな人が集まり、隣り合わせ、同じものを楽しむという機会は、子どもたちの今後の『普通・当たり前』の感覚を作り上げていく一部になるのでは、と思います。
- ・よくある車椅子席は、車椅子の人だけを一か所に集めるので疎外感を感じますが、今回のコンサートはみんなと一緒に楽しめたことがとても嬉しく思いました。来場された方々も、みなさん車椅子ユーザーである私たち家族に対してとてもフレンドリーに接して下さったこともまた良い思い出です。このように、みんなと同じ空間を楽しむことの大事さを改めて実感いたしました。

② 様々な楽器や歌によるリアルな音楽体験をすることにより、多角的に音楽への興味関心を引き出すことができる。

日本の伝統楽器である笙、龍笛、篠笛を紹介するコーナーを設け、大きな反響があった。

笙の紹介をした際は、会場が静まりかえり、皆が音の世界に浸っていた。

楽器体験コーナーは例年どおり大人気で、おとなも子どもも目を輝かせて楽しんでいた。

【アンケートより】

- ・もともとピアノを弾いているのを見るのが好きな子どもでしたが、他にもいろいろな楽器があることを知り、目をキラキラさせておりました。
- ・ここでしかできない初体験がたくさんできて、親子共にいい思い出になりました。
- ・楽器体験コーナーではヴァイオリンを丁寧に教えてくれて良かった。
- ・実際に楽器に触れさせていただいたのは、とても貴重な体験でした。実際の演奏の間に楽器に触れるというタイミングも、本来の音を聴いた上で体験出来て良かったです。
- ・日本の古い楽器を改めて知ることができ、とても良かったです。

③ 分かりやすい演出を加えるプログラムにより、クラシック音楽の真の楽しさを理解することができる。

8月の「ピーターとおおかみ」、12月の「くるみ割り人形」ともに、お話を交え、演技も交えながらのプログラムとした。

どちらのプログラムも、子どもたちが音楽に引き寄せられ夢中になって楽しんでいた様子がうかがえ、会場全体が一つになったように感じた。

8月のコンサートでは、コンサート中に子どもたちが退屈しないよう、曲の解説は極力短くし、興味のある方には楽しんでいただけるよう解説文をプログラムに挟み込んで配布した。

12月のコンサートでは、解説の必要性が少ない曲目が多かったため、解説文は割愛した。

【アンケートより】

- ・「ピーターとおおかみ」では、普段は映像からもらう情報に頼るばかりなので、「音から想像する」ということができ良い体験となりました。
- ・小学生の子ども2人と見に来ました。とても分かりやすい内容で、二人ともステージにくぎ付けでした。母としては、パンフレットの見やすさも感動しました。
- ・子どもたちが「すごく楽しかった！！」と何度も言っていました。
- ・子どもたちが音楽に興味を持って持たなくても、音楽にこんな近い距離で触れ合えるのはとても貴重な機会だと思います。
- ・アンコールの八木節は、また聴きたくなるくらい面白かったです。
- ・最後は泣きそうになっちゃいました。

④ 「出入り自由、踊っても歌っても良いコンサート」とすることで、障がい等の理由により普段コンサートに足を運ぶことを躊躇する親子に気兼ねなく音楽を楽しむ場を提供できる。

12月の会場では、ステージの前にプレイマットを用意し、小さな子どもと親御さんがマットの上で自由に音楽を楽しんだ。この様子が、会場全体を自由に楽しめる雰囲気にするのに一役買ったようで、音楽に合わせて身体を揺らしたり飛び跳ねたりして楽しんでいる子どもたちの様子がうかがえた。

8月の「ピーターとおおかみ」では、おおかみ役を演じた団員が客席の間で動き回り、12月の「くるみ割り人形」では王子役とクララ役の団員が客席を回って紙製の花を子どもたちに配った。

演奏中に団員が音楽に合わせて客席で動くことによって、会場全体に自由な空気が流れたように感じる。

【アンケートより】

- ・少し立ち上がったも、声を出しても、退出させられないことが大変嬉しかったです。
- ・障害児を含めて、家族そろって参加出来て、感謝しております。
- ・いつもは、うるさくしたらどうしようと思ひなかなか演奏会に参加をできずにおりますが、今回は安心して最後まで席に座っていることができました。
- ・自由に音楽に合わせて身体を動かし、歌えるコンサートで、楽しすぎました！！大人も子どもも最高の時間を過ごさせてもらいました。

⑤ 昨年度と異なる区域で開催することにより、川崎市内の多くの子どもたちに参加してもらうことができる。

川崎市内の会場をいろいろ検討したが、車椅子の方達にとってのアクセスの良さ、人が集まりやすい利便性の高い場所ということを考え、結局、昨年度と同じ幸区（川崎駅前）、中原区（武蔵小杉駅前）での会場で開催することとした。

【アンケートより】

- ・スタッフの方の優しさ、駅からのアクセスの良さ等々、素晴らしかったです。車椅子でも何の不自由もありませんでした。
- ・施設も駅から近く、環境もどなたでも参加できるように整っているように感じました。

2. 今後の課題

① 車椅子の誘導

8月、12月ともに「車椅子席」を敢えて用意しなかった。8月はそのことが功を奏し、お客様同士で席を譲り合い、とても和気藹々とした雰囲気の中で車椅子の子どもたちも親御さんも皆に交じって楽しんでいる様子がうかがえた。

一方、12月はホールの形が縦長だったためもあり車椅子の誘導が難しく、車椅子を客席の前方に案内すると、その後ろの席の方達はステージが見えなくなってしまうようで、車椅子の方が遠慮して客席後方に移動されるケースが見られた。

会場の形にも配慮する必要があると感じた。

② 広報

昨年度の反省を踏まえ、今年度は予約制（定員100名）として、お客様を募集した。

今年度は、両コンサートとも募集を開始して1か月超で満席となり、（100名定員のところ140名ほど募集）、受付を終了した。

12月のコンサートの受付終了後に、あるお客様より「前回も図書館にチラシが配架されるのを待ってすぐに申込みをしたが、前回も今回も予約が取れなかった。」というお電話を頂いた。

このお電話により、チラシが公共施設に配架される前にサイト等での受付を開始していたことに気づいた。

次回からは、チラシが配架されるタイミングでサイトでの受付が開始できるよう、調整が必要だと感じた。

3. 今後の展望

「市民と共に考える多様な社会の実現」を引き続き目指す。

市民と共に「未来の社会がどうあるべきか、子どもたちにどのような社会を残したいか」ということを考え、道筋を作っていくたい。